

## 知事記者会見（平成21年8月10日）

### ●知事発表

（1）新型インフルエンザ対策の見直しについて

### ●幹事社質問

（1）各政党のマニフェストについて

（2）県の組織再編について

### ●その他の質問

（1）衆議院選挙について

時間：12：59～13：33

場所：県庁プレゼンテーションルーム

---

（幹事社）

定刻より若干早いんですが、早速始めたいと思います。

今日、最初、知事から発表事項があるということで、説明をよろしくお願いします。

---

（知事）

私の方からは、正式な発表事項は1つです、その前に話題提供を。今年から平成24年にかけて南極探検隊の白瀬中尉のイベント等が開かれます。イベントの皮切りとして今月の14日、アルヴェにおいて、「白瀬をもっとよく知ろう！県民集会」が開催され、作家の西木正明さんなどがおいでになりパネルディスカッションも予定しています。15日は南極の氷の贈呈式と、南極の氷とミネラルウォーターで乾杯などもあるようです。また、いつかの時点で新しい白瀬南極観測艦の秋田港への寄港を実現できればということで働きかけをしています。

もう一つは私の方からの発表事項です。

今日、新型インフルエンザ対策本部会議を開きまして、新型インフルエンザ対策について変更をするということになりました。県内の患者数は、これまで55人となっており、最近、感染例が相次ぎ、感染源の特定が困難なケース、あるいは保健所の積極的疫学調査の範囲が特定しにくいケースが出ています。このため、秋田県新型インフルエンザ対策本部においては、感染初期という扱いから感染拡大期という取り扱いをすることにいたしました。これまでの感染者の全数把握による初期感染拡大防止から、学校や施設等における集団感染の早期把握や、重症化防止対策の重点化に対策を切り替えるということです。したがって、今後、患者発生情報の公表については、これまでのように個別公表ではなく集団発生事例について適宜公表いたします。また、これまででは発熱相談センターに電話相談

し、指示された発熱外来を受診することとしていますが、この対応については、当面維持します。

なお、発熱外来の特定されたところではなく、地域の医療体制を構築したあとには、事前に登録している一般の医療機関、かかりつけ医でも受診できるよう現在準備を進めています。相手のあることでありますので、一斉にいくかどうかわかりませんが、9月ころを予定しています。それまでは、今までと同じように保健所や市町村の発熱相談センターに電話相談をしていただき、紹介された発熱外来を受診してくださるようお願いいたします。

なお、この件につきましては、若干専門的なこともありますので、記者会見の後、担当部局が来ておりますので、必要であれば担当部局の方に詳細をお聞き願えればということです。私からは以上です。

-----  
(幹事社)

今の知事発表事項について質問のある社は順次お願いします。  
インフルエンザについては後で担当部局の説明があるそうなので、そこをお願いします。  
では、幹事社質問をします。2つありまして、まず1つは、先日全国知事会が自民党と公明党と民主党と公開討論会を開催して、それを経て採点というか評価をしたわけですが、当日、知事は欠席けれども意見は出したいということでした。知事はどのような意見を付けて、どのような点数をつけたのかについて教えてください。

-----  
(知事)

個別の点数は発表しないという取り決めにしております。各項目10点満点で、刻みが10点、5点、0点になっていましたけれども、知事会の平均点をみると、そういう刻みではなくもっと細かくなっていました。各政党のマニフェストは非常に短く箇条書きのため、多分こう読めるだろうということで10点つけるのか、いや、こうは読めるけれどもやや不確定だということでルールにない7点とか、6点というつけ方も大分あったのではないかと思います。でないと、ああいう細かい刻みの点数にはならないはずです。私は比較的ルールに則って点数をつけましたが、大体、全国知事会の平均と似たような感じです。

ですから、知事の中ではそう大きく異なった捉え方はしてないと思っています。また、私のつけた点数とも、そう違わなかったというところではあります。

総論として、知事会では一番点数のよかった公明党さんは、各項目についてかなり精査をし、現実の状況を見ながら、丁寧な形でマニフェストを作ったなというふうに捉えています。そういうことから公明党さんは他の2党より点数がちょっと上だということです。

次に自民党、民主党という順ですが、この差はそうなかった感じがします。ただ、一つ一つの事項の捉え方が大分違ってるように思います。言葉だけで捉えるのかその裏を読むのか斜め読みするのかで（評価は）大分違ってきます。自民党さんは、政権与党ということで、地方六団体がこれまでも何回もお話ししてきたものが頭にあって、それを今回一気にまとめて回答を出したような形には見えますが、ただ、そういうことでかなり現実的なものの捉え方をしていると思います。もう一つは、政権党ですので、税財源論については一定の整合性が見られたということは確かです。

ただ、地方分権改革推進委員会の勧告も尊重してそのとおりにやるとは言っていますが、勧告が何回か出された段階においては相当否定的なことを言っていました。これまでの経緯をみると、やや選挙を意識して丸のみのような感じがしました。

次に民主党さんについては、これは政権与党でないので、やむを得ないと言えばそうかもしれませんが、それぞれの項目について非常に表面的というか、今ニュースになっている、あるいは国会等で話題になっているようなものを象徴的に捉えて表現をしているのが見えました。分かりやすいといえば分かりやすいんですが、実はそれぞれの項目というのはもっとボリュームも奥行きもありますので、表面的に捉えて、それですべてを断定するというものではないというところがあります。地方分権の知識のある人が書いたマニフェストではなかったと感じられました。それゆえ、税財源論のところについては公開討論会の中でも具体的な回答は出てきませんでしたし、政権を取ってから検討するという形でした。税財源論というのは、ちょっと行財政をかじっている人であれば、一定の枠、あるいはルールやボリュームというものが分かるわけですから、そこら辺の検討がなされてないということについては、我々としてはどう見ればいいのか不安があるということです。

例えば、地方の一般財源を充実すると書いてあるんですが、地方の一般財源というのは全体から見るとそう大きくはないです。一般財源のほかに国の補助交付金があります。これを一括交付金にして一般財源にするという場合、一括交付金のボリュームはどうやって決めるのか。今、事業があるから（補助金が）来てるわけですが、事業がなくても人口、あるいは面積で配分されるということになりますと、必要なところに来なくて、必要ないところに行くということになります。財政と事業がリンクするというのはちょっと考えれば分かるんですが、そこら辺がほとんど説明ができていなかった。公開討論会では財政力の弱いところには配慮するというような話が（民主党の）玄葉さんから出ていましたけれども、配慮するという言葉自体がおかしいと思います。配慮するというのは裁量権、政治的要素が入るわけですから。ほとんどの自治体の長はそこら辺を非常に不安に感じています。ただ、国の地方支分局の統廃合などについては非常に歯切れよく書いてますので、それぞれ項目によって自民党と若干プラスマイナスがあったりということです。私もそのような形で総括をしていましたけれども、知事会から出たのもほぼそれと似たような総括ではなかったかと思います。

---

（幹事社）

今の件について質問のある社はどうぞ。

じゃあ先に、県庁組織の再編についてなんですが、知事が就任当初に、9月をめどに議会には素案を示したいということで、あと1カ月切っているわけですが、現時点で作業がどこまで進んでいるかについて、決定事項もしくは方針もですね、決まっている部分について教えてください。

---

（知事）

この間の議会には検証結果を出して中間報告をさせていただきました。現在のところ、決定しているものはないわけですが、大きくは知事公室の廃止、これは最初から言ってい

ます。また、公設試に関して学術国際部についても手が入ります。そうすると当然、総務企画部もいろいろな形で関連をしていくということで、知事公室、総務企画部と学術国際部、この3つが変更の中心になるという方向で今進めています。どういう形にするのかについては、少し検討を必要としていますので、まだ案としてコンプリートされているものは現在のところはありません。ただ、今、お話ししましたとおり、知事公室、総務企画部、学術国際部はある程度、知事公室の廃止を含めて動くということです。また、学術国際部は公設試の関係がありますので、公設試をかつて持っていた産業、医療衛生系の部局は、それに伴って少し付加されるということになるかと思えます。

-----  
(幹事社)

今の件について質問のある社はどうぞ。

-----  
(知事)

今のところ9月の議会で粗々の方向を出しまして、最終的には12月の条例化で正式決定を目指す、そのように考えております。

-----  
(幹事社)

幹事社から関連で1点伺いたいんですが、振興局について基本的には8局のままでいくということなんでしょうか。

-----  
(知事)

地域振興局を3局にするということは純粹にいくとほかの振興局はゼロになるんだけど、そうはならないでボリュームの問題になると思います。一部建築確認等は実際、県民に不便をかけるということで、半分戻したところもあります。他にも現在検討中です。昔の8局に戻るとは言っていないんですが、どういう形がいいのか、ものによっては、単年度ではできないものが出てくる可能性もあります。というのは、秋口から市町村長さんと例の協働政策会議を開催するわけで、そういう中で当然市町村長さんは、地域振興局について非常に関心があります。ものによっては、一定の時期に機能合体の形が出てきますと、地域振興局の業務との関連が出てきますので、単純にはいかないと思います。ただ、最終的には行財政、行政改革プラス、県全体の一つの戦略との関係でいろんな要素が新たに加わってきますので、全く昔の8局に戻るということはあり得ないということです。

-----  
(幹事社)

幹事社質問を含めて、その他自由をお願いします。

-----  
(知事)

次回の記者会見は31日ということです。

-----  
(幹事社)

すいません、幹事社から。

今、振興局の話の中でボリュームの問題というのがあったんですが、それは、同じ振興局の中で、例えば機能を1カ所に集めたりとか、昨年度末にやったようなことを考えるということなんですか。

-----  
(知 事)

まだ、結論というか方向性は定まるまでちょっと時間がかかると思います。各地域回って、いろんなお話をお聞きしています。地域振興局が、これまでよくやってくれたので非常に民間の方もやりやすかったという話があったり、あるいは地域振興局へこれまでにないような役割を地域の方から提起されたりということなどかなりいろんな面でいろんなお話を伺いました。「村なか街かどトーク」の中でも、地域振興局と非常に密接な関係で、いい形で物事をやって活性化につながってるところもあったものですから、そういうところについては機械的にということにもいかないでしょうし、地域によって主要な課題というのが大分違ってきますので、今の地域ごとの戦略、県全体の行政改革の視点、あるいは市町村の今後の方向性、もう一つは私が提唱している一部事務の機能合体、ここら辺を全部ミックスして整理しながら考えていかなければならないということで、若干頭がこんがらがっているところもあります。どういう形でこれを整理するかというのは単に私の感覚だけではだめなので、十分、地域の職員、あるいは市町村から意見を聞いた上で、進めていかなければならないと思っています。

まず、一番なのは本庁の組織を固めないといけないと思います。そこで行ったり来たりしますと効率も上がりませんし、県民にご迷惑かけますので、地域振興の問題も含めて少なくとも、新年度早々には本庁だけは固めるということです。地域振興局については、来年度の4月の時点では、コンプリートでなくて部分的にということもあり得ます。組織論については、これまでの検証結果、あるいはいろんな状況を踏まえて、これから本格的な作業になるかと思っています。

-----  
(記 者)

全く別な話ですが、30日の総選挙までちょうど解散から半分ぐらいの状況です。知事選に出られた川口さんが総選挙の方に立候補されたということについて、率直なところで知事としてどう受け止められているか、所感ないしは思うところがあれば教えてください。

-----  
(知 事)

あまり私がとやかく言う筋合いはないんじゃないかと思います。2区関係の皆さんについてはいろいろな思いがあるんじゃないかと思います。ただ、立候補する自由は誰でもあるわけですので、川口さんの行動について私は特別コメントする立場にはないということです。

-----  
(記 者)

先ほどの知事会の、マニフェストの採点の件なんですが、知事は個別の点数の発表はしないという考え方に立っていると思うんですが、一部の他県の知事の中には事前に点数を

公表した人がいます。このあたりは考え方なのかなと思うんですけども、まあこういった一部の知事が公表したようなことについて知事は何かお考えありますでしょうか。

-----  
(知 事)

知事会の中でもいろんな方がおまして、一応、知事会として申し合わせでそれは公表しないという取り決めをしたんですが・・・私は順位は先ほど言いました。マニフェストだけでは、点数もやや感覚的にならざるを得ないと思います。個別では一部分、私と全然違っている人もいます。それは深読みしてるか浅読みするかの違いではないでしょうか。今回公表している方は割とさらっと読んでいるかなと思います。私は、昔、県職員でしたので、ここが動けばこれが動くと、そうすると数字はこうなると、表面的によくても、矛盾点、整合性というものまでみないと私としては点数つける気になりません。全体からするとさらっと見た方が多いような感じします。そんなこと言うと失礼かもしれませんが、地方分権のところはもうちょっとボリュームがあって整合性がとれていれば・・・マニフェストというのは地方分権だけでないわけですから。ちよつとももの分かる人だったら3時間もあれば、あの3倍は書けますよ。そこら辺が意外と不思議なんですよ。例えばアメリカ大統領の選挙みたいにマニフェスト作るという作業を客観的な指標、情報を得ながら一定の専門家の集団がやってるといふところまでは、まだ日本の政党は来てないのかなと思います。

-----  
(記 者)

衆議院が解散してからしばらく時間が経って、解散当時には今度の選挙について知事がどう見てるかというような質問もいろいろこの場でも出ましたけども、それからまたしばらく時間が経ってますが、現段階での知事の今度の衆議院選挙の何というんでしょう、感触といいますか、どのように捉えていらっしゃいますか。変化があるかどうか。

-----  
(知 事)

マニフェストが出たわけですけども、実際、国民からするとマニフェストについてどのくらい関心があるかという、私は行政関係者だとか例えば農業関係だとか、直接影響を受ける方々は非常に関心があるかもしれませんが、一般的には何となくまだマニフェストというよりも雰囲気が決まるような気がします。この不況という中での選挙で、マニフェストを簡単に真に受けていいのかなとも思います。そういう言い方すると悪いかもしれませんが。

-----  
(記 者)

解散直後は非常に民主党に追い風が吹いているというような形の中での解散だったと思うんですが、それからしばらく期日が経って、まだそういう政権交代の可能性等々の話も以前ありましたが、その辺については現在も変化ないという・・・。

-----  
(知 事)

やはり大きな流れとしては、これは私がというよりも、あくまでもいろいろ物を見たり

聞いたりする範疇では、そういう流れは依然変わっていないのではないかと思います。

ただ、前にも自民党さんが非常にいいということで、蓋を開けたらそんなによくなかったということもあります。マニフェストを真に受けるかどうかは別にして、時間も結構あるわけですので、こういうものは必ず波があります。30日にどっちに波が行っているのかということもあるのかなと思います。平均点を出した9団体、あれを見ると「構想日本」というのは頭から民主党系、当然、連合さんもそうですね。逆に自民党系のところもあるので平均点はあまり当てにならないと思います。選挙はこれからじゃないでしょうか。

こんなこと言っていていいか悪いかわかりませんが、私も4回選挙やっていますから、なったつもりでものをしゃべるなどということがあります。公示になる前から、選挙をやらないうちから、勝ったという前提でものを話されると鼻についてくる、国民というのは、意外と見ていて、そういうところについてはかちとくるところがありますので、各政党とも一生懸命、真摯に行儀よくやっていただきたいなと思います。

---

(記者)

すいません、また話が戻ってしまって申しわけないんですが、知事会のそのマニフェストの採点の関係で、前回の会見の時に知事の評価の基準として道州制の扱いをどうするかというようなこととお話しされてたと思うんですけども、ちょっと改めてになるんですが、知事の道州制に対する考え方と、まあそれを踏まえて各党のマニフェストをどう見られたかというところ。

---

(知事)

少なくとも、自民党も公明党も道州制という形になるといっています。民主党さんは基本的に道州制はいらぬということ、全国自治体をもうちよつと大きく括って300自治体ぐらいにして、2層構造にするというのが小沢さんの基本的な考え方でありまして、やはりそれから抜けてないということです。この間の玄葉さんのお話でも道州制については民主党としてはそう積極的ではないと捉えています。そこが民主党の点数のつかなかつたところ。ただ、知事会も道州制についてはかなり疑問を呈しているグループもありまして、知事会全部が一枚岩ではないわけですので、あまり知事会として大きいことは言えないのかなとも思います。ただ私は、非常に慎重にかつ国民の議論をきちと踏まえた上でという前提ですが、将来的な道州制については私はこれは否定をするものではなく、そういう形も一つの選択肢だということを言っていますので、道州制がないところについてはその部分点数は減ります。

---

(幹事社)

ほかがなければ、これでいいでしょうか。ありがとうございました。